

経営比較分析表（令和元年度決算）

岩手県 住田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	該当数値なし	63.39	3,950	

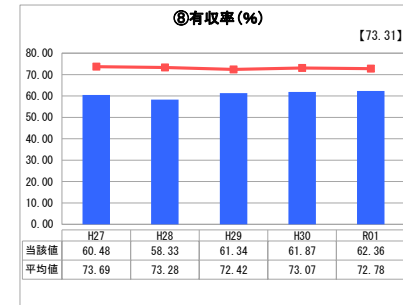
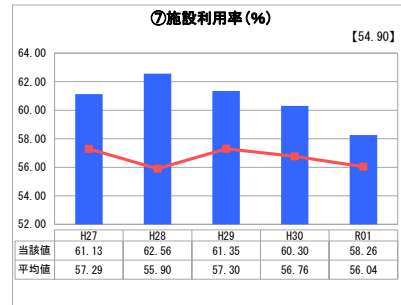
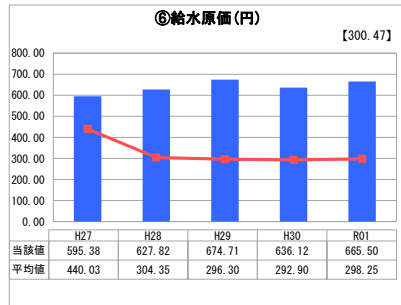
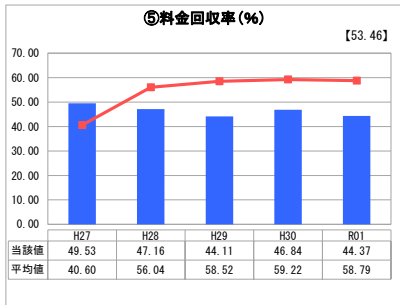
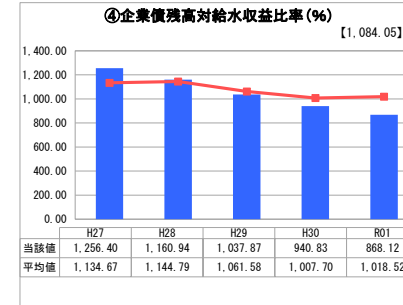
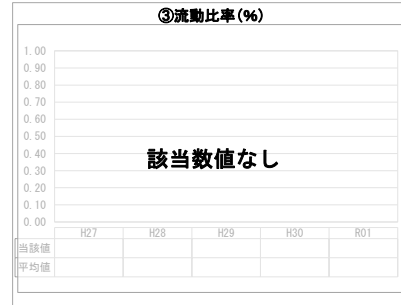
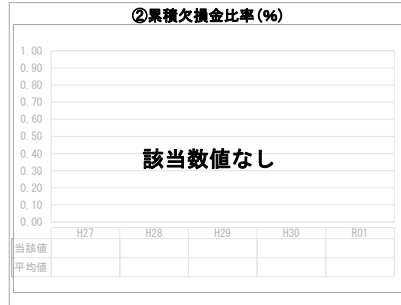
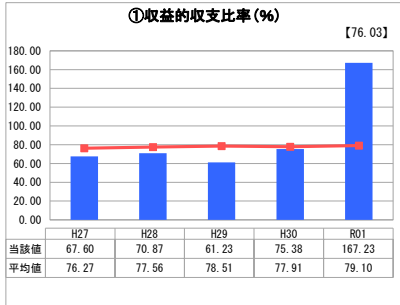
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,384	334.84	16.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,369	12.49	269.74

グラフ凡例

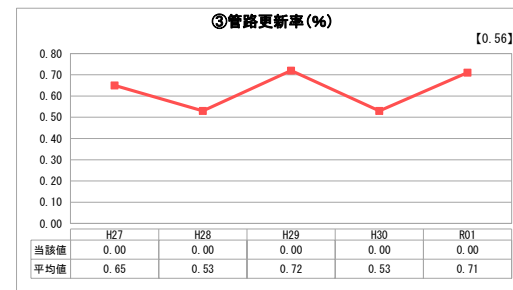
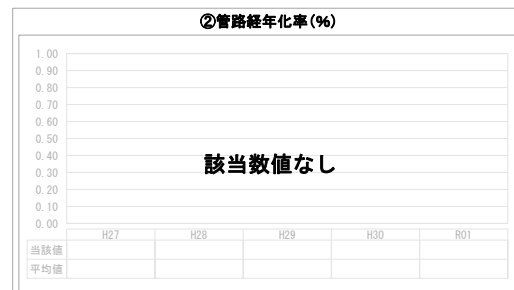
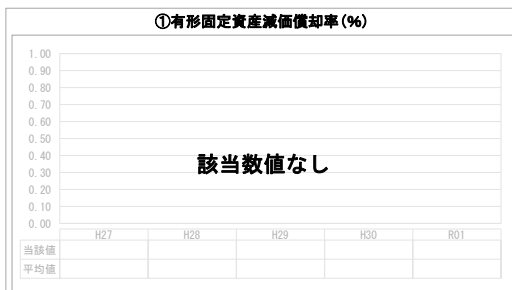
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

①収益の収支比率は、令和2年度から公営企業会計に移行するに伴って、基金を繰入したことから前年度から大幅な増加となっている。今後は、施設更新に係る費用が増加することに伴い、比率は減少していく見込みである。

④企業債残高対給水収益率は、新たな事業に着手せず、また、企業債残高も減少しているが、今後の設備更新に伴い、現状よりも増加することが見込まれる。

⑤料金回収率は、微減となっているが、ほぼ横ばいとなっており、新たな給水収益の見込みがないため、この状態が続くものと思われる。

⑥給水原価は、増加傾向にあり、配水管や電気設備等の老朽化に伴う修繕費用の増が影響しているが、前年度から徐々に減少しており、節水等による使用水量の減少が影響している。今後は、徐々に類似団体平均に近づくものと思われる。

⑧有収率については、発見された漏水箇所をその都度修繕し、現状より漏水量が増加しないようにしているため、ほぼ前年度と同様の状態となっている。しかし、漏水調査等で発見できない漏水が、継続して発生しているため、類似団体平均を下回っている状況を変えるまでには、至っていない状況となっている。

2. 老朽化の状況について

水道施設及び配水管等は、施設更新等を実施していないため、年々老朽化が進行している。ただし、耐用年数を越えて使用している施設は少なく、その都度修繕して対応している。塩ビ管で布設した配水管の漏水が増加しており、耐震管による更新が必要だが、財源を確保することが困難で、公営企業会計に移行し、減価償却費等の費用を計上することにより、施設等の更新費用を確保する必要がある。

全体総括

本町は、令和2年4月から公営企業会計を適用したことから、今まで以上に経営状況の明確化や資産の正確な把握などに努め、施設の更新計画や適切な料金水準等を検討した上で、経営戦略の見直しもを行い、将来に向けて経営改善を続けていく必要がある。